

皮膚科学の進歩に寄与する研究報告書

短期的な効果でなく、長期的な肌健康を考慮したスキンケアを

リノール酸含有の合成界面活性剤不使用のエマルジョン化粧品を使ってバリア機能を強化して、角質水分を保持するスキンケアと、化粧水・乳液・クリーム・オイルで水分を補給してフタをするスキンケアでは、「素肌美・トラブル改善・美容」効果に大きな違いが出ます。どちらのスキンケアも、ある時までには同じ効果です。しかし、ある時期を境に顕著な違いが出てきます。化粧水・乳液・クリーム・オイルで水分を補給してフタをする保湿スキンケアは、肌がポロポロになっていきますが、バリア機能を強化して角質水分保持するスキンケアの場合、「素肌美・トラブル改善・美容」効果がそのまま維持されます。

この研究報告書は、「素肌美・トラブル改善・美容」効果には皮膚バリアが密接に関係していること、合成界面活性剤不使用の製品は長期使用しても安心であること、そして化粧水・乳液・クリーム・オイルで水分を補給してフタをする保湿スキンケアは短期的には有効であることなどを伝える研究報告書です。

●補足説明:

リノール酸含有の合成界面活性剤不使用のエマルジョン化粧品を使って、バリア機能の強化と角質水分保持に焦点を当てたスキンケアは、確かに肌の健康を長期的に維持するために重要です。皮膚のバリア機能が強化されると、外部刺激からの保護が強まり、水分の蒸発も防ぎやすくなり、その結果、角質水分保持力も向上します。これにより、肌のトラブルが減少し、素肌美が保たれ、美容効果も向上します。

一方で、化粧水・乳液・クリーム・オイルを使った保湿スキンケアも、肌に必要な水分を補給し、油分成分が肌表面にフタをすることで水分の蒸発を防ぎます。適切に行えば、短期的には効果的です。ただし、長期的な肌の健康を考えると、バリア機能を強化するスキンケアが推奨されます。

このように、どちらのアプローチもそれぞれの利点がありますが、最も重要なのは、自分の現在のニーズよりも長期的に肌を健康に保つ方法を見つけることです:

1. 製品の成分: 皮膚バリアに優しい成分を選ぶことも重要ですが、さらに重要なのはリノール酸が含有され、合成界面活性剤が不使用であることです。特に敏感肌の場合、刺激の少ない成分よりも、リノール酸が含有され、合成界面活性剤が不使用の製品を選ぶことが推奨されます。
2. 使用方法: 適切な量と頻度で使用する事が大切です。過剰な使用は逆効果になることがあります。

スキンケアを選ぶ際に、自身の現在のニーズや目的も重要ですが、それ以上に皮膚科学的な観点から長期的に肌を健康に保つ方法を見つけることが重要であるということです。つまり、短期的な効果だけでなく、長期的な肌の健康を考慮したスキンケアを選ぶべきです。